

小山市事務事業評価シート

令和4年度版

No. 3

1. 基本情報			
<1> 事業・業務名	平和都市宣言事業		<2> 事業・業務の別
<3> 選定基準	② 事業の範囲や経費等について、市の裁量の余地がある事業		事業
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	1 協働によるまちづくりと誰もが活躍できる社会・ひとづくり	<4> 継続業務・新規業務の別
	中項目	1-3 互いに思いやり認め合う地域社会	継続業務
	小項目	1-3-1 恒久平和	<6> 担当部(局)
	施策	平和に関する催事の開催、平和基金の活用、次世代を担う若者の平和事業への派遣	総務部
<9> 根拠法令・計画等	小山市平和基金条例・小山市平和基金管理要綱	<10> 関連・類似事業	<7> 担当所属
<11> 会計	一般	会計	行政総務課
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	行政総務係
<15> 実施手法	直営	「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -							
<16> 事業・業務の概要	平和都市宣言事業として、平和展・出張平和展の開催、広島平和記念式典中学生派遣、平和ポスター募集、平和基金の募金活動及び運営を行う。						
目的	<17> 事業・業務の目的	平成4年の平和都市宣言表明の下、市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識し、戦争や原爆の傷跡を風化させることなく、次世代に引き継ぐこと。					
	<18> 事業・業務の対象	戦争を経験していない市民（特に次代を担う若い世代）					
<19> 令和3年度の活動内容	①広島や長崎の原爆写真や被爆資料などを展示する平和展・巡回平和展の開催。 ②広島平和記念式典への市内中学校2年生及び義務教育学校8年生の派遣。※①②はコロナ禍のため中止 ③児童生徒を対象に平和ポスターの募集。 ④平和基金の募金活動や、基金を活用した小・中・義務教育学校への平和啓発図書の配布。						
手段	活動指標（活動した量や実績）	指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		平和展周知パンフレット	枚	計画	実績	計画	実績
	指標とした理由	効果的な広報手段の拡充をすることにより、より多くの市民に平和展の開催を周知することが期待できるため。					
	生徒派遣人数	人数	28	0	28	0	28
指標とした理由	生徒を広島平和記念式典等に派遣することで、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさ、平和の尊さを学んでもらい、平和活動のリーダーとしての成長を促すことが期待されるため。						

<21> 事業・業務の成果	平和事業の推進をし、市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識する契機とし、市民の平和意識の高揚を図る。							
成果	成果指標（活動した結果得られた成果の量や実績）	指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		平和展入場者数	人数	計画	実績	計画	実績	
		活動指標との関係や成果指標とした理由	平和展等の周知活動を行った成果として、市民の方が平和展の会場に足を運ぶことで、平和を考える機会の提供ができるため。					
		HPアクセス数	件	1200	253	1200	591	1200
活動指標との関係や成果指標とした理由	平和展等の周知などや平和都市宣言事業に係るホームページの充実をはかることにより、平和都市宣言事業の認知度の向上が見込まれ、市民の方へ平和を考える機会の提供ができるため。							

資源	<23> 投入指標（投入するお金の量）	コスト実績	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度			
			千円	計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	実績(決算)	
		事業費等	千円	6,744	1,691	6,246	1,730	6,696	6,696	
		財源内訳	国・県補助金	千円	3,649	143	3,151	182	3,601	3,601
			地方債	千円						
			その他	千円	100	80	100	70	100	100
		一般財源	千円	3,549	63	3,051	112	3,501	3,501	
上記の主な使途	平和展資料運搬費・広島派遣旅費・平和ポスター入賞者記念品									
人件費	千円	3,095	1,548	3,095	1,548	3,095	3,095			
正職員	千円	7,737 × 0.4	7,737 × 0.2	7,737 × 0.4	7,737 × 0.2	7,737 × 0.4	7,737 × 0.4			
他の職員	千円	×	×	×	×	×	×			

3. Check - 評価 -				
妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1. 妥当である		
	理由	戦後・被爆76年という年月が過ぎ、戦争体験者や被爆者の高齢化が進み「平和を愛する心」を語り継ぐことが難しくなっていることから、戦争や原爆の傷跡を風化させることなく次世代に引き継ぐことを目的とした本事業は、目的・対象ともに妥当であると考えられる。		
	<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1. 妥当である		
	理由	平和展・出張平和展の開催、広島平和記念式典中学生派遣、平和ポスター募集、平和基金の募金活動及び運営については、現行の手法で、継続していくことで一定の成果はあると考える。		
	<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2. 変わらずにある		
	理由	市民が生命の尊厳と平和の価値を深く認識することができるよう、平和を考える機会となる場を設けることは求められていると考える。		
	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1. 妥当である		
	理由	小山市は平成4年7月1日に平和都市を宣言し、核兵器の廃絶と恒久平和の達成に努力することを表明しており、市が主体として行うことが妥当と考える。		
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1. 向上の余地はある	
		理由	インターネットやSNSなどの情報媒体を積極的に活用するなど、他自治体の先進事例をよく調査し、より効果的かつ訴求力の高い啓発手段を検討したいと考える。	
効率性	<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいのか？	1. 大きい		
	理由	「互いに思いやり認め合う地域社会」を構築するためには、「恒久平和の実現」が根幹を担うと考えられるため、それらの達成を目的とする本事業の貢献度は大きいと考える。		
公平性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	2. 向上の余地はない		
	理由	「巡回平和展」については、出張所・市民交流センターにおいて実質的な観覧者が少ないことから廃止し、市民の目に多く触れる場所などを検討する。		
<32> 総合評価	<31> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	4. 該当しない		
	理由	平和の啓発を目的としているため、受益者負担に該当しないと考える。		
理由	2. 改善の余地はある	理由	①平和展・巡回平和展開催、②広島平和記念式典中学生派遣、③平和ポスターの募集、④平和図書の配布などの事業を通じて、市民一人ひとりに戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを再認識する機会を提供し、平和の尊さや大切さに対する認識を広めていくことを目指しているが、コロナ禍で2年連続で①②の事業が実施できなかったため、インターネットやSNSなどの情報媒体を積極的に活用するなど啓発について工夫する必要がある。	

4. Action - 改善 -			
事業の改善	<33> 事業の課題事業の改善点	戦争を体験した世代や、戦争体験を語る方が高齢化で減少しているため、若い世代への継承や、戦争の記憶をどのように伝えていくかが課題である。令和3年度には、広島平和記念館のホームページには被ばく体験者の講話録画データが公開されていることから、小山市ホームページから閲覧できるようにリンクを設定し、各市内小中・義務教育学校に対し児童生徒が閲覧していただくよう周知を行った。	

5 Plan - 計画 -			
事業の方向性	<34> 1次評価	所属長	3. 現状維持
	理由	市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを認識いただく機会を提供するため、より多くの市民の方へ周知するため、新市役所庁舎や大型ショッピングセンターで平和展等を開催し事業を実施する必要があると考える。啓発の手法についてはコロナ禍の影響も鑑み、インターネットなど直接会場へ出向かずとも実施できるものを検討する必要もあると考える。	
事業の計画	<35> 2次評価	所管部長	3. 現状維持
	理由	平和の尊さを認識するうえで、戦争を知らない世代へ戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ啓発していくことは重要であることから、広島平和記念式典中学生派遣、平和ポスター募集、平和基金の募金活動等の事業は継続していくことが大切である。また、対象となる市民の方へ効果的に情報を届けるための周知方法や啓発方法を検討することも大切である。	
事業の計画	<36> 実施計画・今後の方針	市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の尊さを認識し、戦争や原爆の傷跡を風化させることなく次世代に引き継ぐためには、一人でも多くの市民への共感が必要であることから、インターネットやSNSなどの情報媒体を積極的に活用するなど、より効果的な啓発活動の仕組みの構築を検討する。また、令和4年度は、平和都市宣言30周年記念事業として、市内在住の被爆体験者の講話を撮影したDVDを作成し記録を残し、市内小・中・義務教育学校等での活用を図る。	
	<37> 活動・成果目標	戦後・被爆76年という年月が過ぎ、戦争体験者や被爆者の高齢化が進み「平和を愛する心」を語り継ぐことが難しくなっていることから、次の世代に引き継ぐためにも、広島平和記念式典中学生派遣団をはじめ、平和展や平和ポスターコンクール、平和啓発図書の配布など、児童生徒を対象とした事業を中心に実施する。また、広く啓発活動を行い、多くの市民に平和についての認識と理解を深めていただく。	